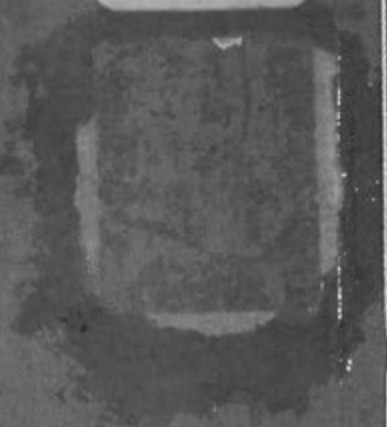


✕
9



書翰初學抄

草書石刻日々ニ用ル所ノ文章草漢書上中下ノ書分ケテ
 記ス書狀ヲ認ル此書ヲ見ルニ用ラ徒ラ不足ナレド
 アニタ板行有共石摺ニテナキハ手跡正シカラズ

子昂	千字文	大字楷書全二册	赤壁賦	楷書中字	全
右刻	千字文	中字楷書全	戀花帖	楷書中字	全
承光	千字文	中字草書全	初聞帖	大字行書	全
洛神賦	大字行書	文徵明全	秋興八首	烏石楷書	
秋興賦	細字楷書	文徵明全	渭水帖	文徵明大字	全
廣澤	公子行	董其昌全	草决百韻歌	文徵明大字	全
先生	蘭亭帖	草書中字	飲中八仙歌	草書大字	
右刻	赤壁賦	行書中字	醉翁帖	行書中字	
品目	長恨歌	行書中字	君王帖	公分行草中字	

白東尺牘

祐齋先生書

日用ノ書翰文法ヲ總集之唐ノ書翰認方 并

4909
 Y0-31
 No. 4165 旧 Y9



房中寡慾篇第九

養神延命錄卷之三

書士川文 2326

日向 龍雷神人大神貫道 著

其夫婦ノ道ハ人倫ノ始ニシテ天地陰陽ノ
 妙合本來妙有ノ神道ナリ故ニ我國史ノ首
 先夫夫婦溝接ノ元由ヲ審ニ紀シ玉フ是神道
 正直ノ神教三教ノ書ニ超過スル眼目ナリ
 然ルニ近世外国ノ書ニナシク禮法ニ拘カ小
 人品ヲカサリテ房中ノ教ヲ卑劣ナリト見

石 刻 目 録

降^ゾシ、只^{サシ}指^{アイ}合^イヲク^リ理^レ屈^ク顔^ク慙^クナ^ルヲ篤^ク實^ク
者^ト心^得外^面ヲカ^サリツ^クラ^フコ^ノミ
ツ^トメ^テ天^性ノ中^和ヲ失^ヒ神^代諾^冊ニ^尊
ノ神^教ヲア^ナト^リ人^倫ノ本^ヲ廉^畧ニス^ル
ハ誠^ニ天^竺魂^唐土^根性^ニ馴^レ染^{タル}ユ^ヘ
ナ^リ歎^クベ^キコ^ニツ^シ侍^ル抑^開天^ノト^キ伊
莽^諾尊^天祖^ノ勅^命ヲ蒙^リ天^浮橋^ノ上^ニ立^タ
シ^テ共^ニ計^玉ヒ^テ天^瓊矛^ヲ指^下シ^滄海^ヲ
カ^キサ^クリ^其矛^鋒ノ滴^瀝凝^テ一^ツノ^嶋ト

ナルコ^レヲ自^凝嶋^ノ曰^ス二^神彼^嶋ニ^降居^リ
一^ニ共^為夫^婦シ^テ洲^國ヲ産^生山^海州^木ノ
神^日月^星辰^ノ神^々ヲ生^ミ玉^ノト^神誓^ヲナ
シ^玉ヒ^テ礮^馭盧^嶋ヲ國^ノ中^ノ柱^トナ^シ陽
神^ハ左^ヨリ旋^リ陰^神ハ右^ヨリ旋^リ同^シク
一^面ニ會^玉ヒ^シ時^陰神^先唱^テ喜^哉遇^可美^シ
少^男焉^トノ玉^ヒシ^カハ陽^神悅^ハズ^シテ^ノ
玉^ハ久^吾ハコ^レ男^子ナ^リ理^當ニ^先ツ^唱フ
ヘ^シ如^何ソ婦^人反^舌言^ヲ先^ダツ^ヤ事^スデ

二不祥改メ旋ルベシト勅^{シテ}亦再^ビ国柱ヲ
旋リ直^シ以^テ此時ニハ陽神先ニ唱ヘテ曰ク喜
哉^ニ遇^ハ可^ク羨^ム少女焉^ト因^テ陰神ニ問^テ曰ク汝
身ニ何ノ成ナル所アリヤ對^ヘテ曰ク吾身
ニ一雌ノ元ト云フ處アリ陽神ノ曰ク吾身
ニ亦雄元トイフ處アリ吾身ノ元處ヲ以^テ
汝カ身ノ元處ニ合^ント思^フ欲^クトコ、ニ陰陽
始^テ、^ミ造^ル合^ス為^シ夫婦^シ玉御本誓スコシモ違^ハ
ズ、一切神達ヲ生^ミ出^シ玉ヒテヨリ神胤^ニ聯^ス
綿^トシテ天壤トカキリナク繁榮^サせ玉フ

下^ニ偏^ニ夫婦^ノ媾^合ノ道ニ非ズンハ爭^カテ生^ク
ノ道アラシヤ故ニ一陰一陽ヲ道ト云偏陰
偏陽ヲ疾^ト云フ天地自然ノ大道固ヨリカ
クノ如^シ併^シ夫婦ノ妙合子孫ヲ相續^セン
カ為^ナレハ神々夫婦々々マシマス下^ニ彼ノ
佛菩薩ノ偏僻ナルカ如キニハアラス然レ
トモ神ト人トノ相^隔ルユヘハ凡^夫ハ色慾
ニ耽^リ媾^合ヲ遊^興慰^ニ用^フ媾^接ノ道ヲモ

紀サズ日時ノ吉凶房中ノ禁忌ヲモ辨ヘス
慾情ノ動クニ隨ヒ行當ニ違合シテ僥倖ニ
見女ヲ産是常人ノ境界ナリ故ニ子孫ヲ求
メタク願フモノモ嗣子ヲ求メ得ス又見ヲ
望マザルモノハ却テ數多出生シテコレヲ
憂ヒ甚フシテハ胎ヲ墮シ又生子ヲ殺スニ
イタル是全クソノ交精ノ道ヲ知ラス只慾
情ニノミ耽リ放蕩ノ具トナス故ナリ十住
心ニ第一異生羝羊心ト云フテ凡夫ノ善惡

ノ因果ヲ知ラスシテ唯媯欲ト飲食トノミ
ヲ想フ事ヲ下劣ナル羝羊ニ似タリト評シ
テ三惡趣ノ業因トスル下亦宜ナラスヤ孔
子モ人少キ時ハ血氣定ラスコレヲ戒ムル
下色ニアリト示サレタリ三教何レモ色慾
ヲ戒メサルハナシ况ヤ神祇好生ノ道ヲヤ
ソレ腎精ノ源ハ天御中主尊ノ靈寶天真名
并ノ一元水ヨリ流レ傳ヘテ万化ノ本基一
身ノ根柢ナリ是ヲ竭ス時ハ顔色憔悴神魂

内ニ倦ニ年ニ先夕テ老筋骨痿弱シテ形
 體タイ尪羸ス五勞七傷皆色慾ノ過度ニ因テ遂
 二疾トナル故ニ房中ノ教ハ人倫ノ急務ナ
 リ内養真詮曰人之稱壯者何在イツシニアル人之稱弱者
 何在イツシニアル辨在乎腎水之有無多寡耳蓋色之害人
 甚于狼虎脩僊家只要留得精住有如只圖快
 樂泄盡無遺則侵尅年齡蠶食精魄闇然不覺
 而元神真氣去矣素女曰養生之道有三曰神
 曰氣曰精此三者而已然此三者以氣化血以

血化精以精養神氣在則生神氣散則死人之
 精氣若不保守而妄輕泄乃喪身速死之效也
 ト古人ノ色慾ヲ戒ムルト如此人各精ハ身
 中ノ至寶ナルトヲ知テ此ノ寶ヲ多ク貯ヘ
 保タモントヲ勤メテ無益ニ泄シ減サントヲ愛
 惜ヘシ此ノ精ヲ女人ニ施ストキハ子ヲ生
 スコレヲ我身ニ留ル時ハ我カ命ヲ生ス子
 孫ヲ相續センカ為ハ夫婦ノ媾合サヘ初婚
 ノ時生ワカク力強ク情ヲ恣ニシテ度ナキ

時ハ終身ノ疾痛ヲマ子キ甚シキ者ハ夭^{ヨウ}凶^{ボウ}
 不^ス故ニ古人每^ツニ子孫マサニ婚^{コン}セントスル
 ニ遇^アテハ必ス諄^シ々トシテコレヲ戒ム百年
 ノ姻眷終身ノ相偶^{ソウ}ナング一月内ヨリ一生
 ノ禍根ヲ種^シ卻^クスル惑ノ甚シキモノナラス
 ヤ况^イヤ空^クク他女ニ淫^{イン}シ放蕩^{ハウ}ノ具トナシテ
 身中ノ至寶ヲ弄^モ棄^クル^モ實ニ愛惜^{アイ}ヘキ^クナ
 ラスヤ本是子孫ヲ相續^ソセンカ為ノ道ナル
 一^ヲヲ辨^ワヘテ其神教ヲ學ヒ時日^{トク}相^ソヲ考^{カウ}ヘ

禁忌ノ事ヲ吟味シテ寡慾ナラン一^ヲヲ念^{ネン}ヒ
 長命無病ノ本基ヲ固^カフスヘシ必シモ是ヲ
 断絶セヨト云フニハアラス彼ノ釋門ノ徒
 陰陽偏僻^{イン}ノ教ヲ立^テ淫慾ヲ断スル^ヲ本意
 トスレ^レ元來天地自然ノ道ナラ子ハ千万
 人ノ中一^ニ兩人^ニ淫欲ヲ滅スル僧稀ニシテ
 天下蕩々^{トク}乎トシテ破戒無慚^ハノ罪ヲ犯^カセル
 一^ヲコソ是非ナケレ或ハ女色ヲ慎^ツム輩ハ却
 テ男色ヲ犯^カスヲ恥^ハトセズ佛スデニ女色ヲ

サへ深ク戒メ断ゼラレタリマシテ況ンヤ
筋ナキ所ヲ穿チ、慾情ニ耽リ其愛着ノ深キ
ハ女色ヨリモ遙ニ越タリ世俗ノ他女ニ淫
シテ不義ニ精氣ヲ減スヨリハ僧侶ノ男色
ニ耽ルハ邪淫ノ罪至ツテ重ク、惑ノ甚シキ
モノナリトイヘ、世以テコレヲ許スハ怪
ムヘキ事ノ限ナリ、又神道ヲ學フモノモ、近
世別シテ、妄ニシテ、色事ヲ戒ムルコトナク、甚
フシテハ多田義俊カ神明憑談等ニ、違合ヲ

神事ナリト称シテ、神前ニテ犯スト云ヘ、
汚穢ニアラスト云ヘル、誠ニ邪見ノ大罪人
神豈其ノ罪ヲ免シ玉ハンヤ、彼ノ書ヲ著シ
タル師弟共ニ、間モナク一人ハ癩病ヲ發シ
テ死シ、一人ハ一夜ノ中ニ惣身瘡ヲ發シ、忽
爛テ死ス、共ニ子孫血脉ヲ断ジタリ、昔立川
派ニ、男女交會ヲ一大佛事ナリト称シテ、兩
部ノ曼荼羅ヲ鋪テ犯シ、忽大地割テ、奈落ニ
沈ミタリト云ヘリ、カクノ如キ邪見ノ者、因

ヨリナレル業果ナレハ其身ニ天罰ヲ蒙ル
ハ是非ナケレ氏其書世間ニ流布シテ百人
ニ一人モツノ邪説ニ陷ラシ事コソ歎カレ
ケレ誠ニ男女ノ交ハ天地ノ妙有ナレハ愛
着ノ情其根深ク源遠シ此生ヲ受タルモ人
誰カ此ノ道ニヨラザルモノアラシヤサレ
氏此ニ淫スルトキハ大ニシテハ國家天下
ヲ滅亡ホロホシ少ニシテハ身ヲ亡シ他ヲ害シ其餘
波親族ニ及フ孀嫠ノ諸道ヲ妨ケ人ヲ惑ス

コアゲテ數フヘカラス古人コレヲ伐性之
斧縮壽之鉞ニ譬ヘ又氷盃ニ湯ヲ盛リ羽苞
ニ火ヲ畜ルニ譬ヘタリ甚々重ンスヘキ
ナルカユヘニ神代ノ書紀先ツ陰陽ニ尊其
始ヲ慎ミ玉フコヲ述ヘ和歌ニテモ戀哥ヲ
以テ第一ノ習トス嗚呼生死迷悟ノ別レ偏
ニユ、ニアリ古人ノ詩ニ美色迷魂似野狐
腰間伏劔斬愚夫雖然不見人頭落暗裡催君
骨髓枯又云皮包骨肉併尿糞強作嬌嬈誑惑

人千古英雄皆坐此百年同作一坑塵ト作ル
カ如ク昔ヨリ英雄豪傑ノ士モ智アルモ愚
ナルモ迷ヒ易ク免レカタキハ只コノ色慾
ナリ能々慎スンバ有ヘカラス併我神道養
生行事ヲ授リ調氣鍊液内觀餐霞等ヲ修煉
スルトキハ神祇ノ冥護三妙加持ノ徳ヲ以
實ニ我身命貴ク此形體再ヒ得ベカラサル
トヲ心魂ニ徹洞シテ長生無病昇天妙果ヲ
ヒシト心ニ掛ケ日ヲ積ミ月ヲ重ヌルニ從

長スルナリ扱テ食事ハ五味薄ク澹泊ナル
モノヲ用ユル時ハ節儉ノ道ニ叶ヒ天地ノ
賜ヲ敬ヒ懼レ腸胃常ニ清虚ニシテ穢滓ナ
ク心ヲ爽ニシ壽ヲ養ヒ徳ヲ養フ其利
益擧テ云フヘカラス若又肉物珍羞肥濃油
膩ノ物ヲ貪リ飽食スル時ハ經脉塞リ元氣
凝滯シテ眠ヲ催シ色ヲ起シ精神ヲ暗クシ
百病ノ根トナル慎ガルヘケンヤ飲食節儉
ノ訓身ヲ保家ヲ齊徳ヲ脩ノ道ナリ常ニ飯

後ニハ徐々ニ行クヲ數十歩手ヲ以テ面ヲ
摩ス小腸及腹ヲスリ面ヲ仰ケテ氣ヲ呵スル
一四五度スヘシ、食後ニ卧ス時ハ氣塞フサカり食
物消シヤウセス身ニ害アリ、飢ル時ハ早ク食スヘ
シ、甚飢ウニレハ胃氣ノキヲ耗減ボウゲンス、生冷ノ物多ク食
スベカラス、別シテ夏月ハ外熱子ツスルト雖モ、
伏陰内ニアリ必シモ温ナルモノヲ飲食ス
ヘシ、併シカシナガラアグリモ灸物煮物等甚熱スルモノハ齒ヲ損
シ、血脉ヲ破ル、傳曰、善養生者先渴而飲、飲不スル

過多、先飢而食、食不過飽、又曰、脾胃喜温、不レ以
冷熱犯之、ソレ我朝ハ神國ニシテ、清淨ヲ貴
フ、獸肉ヲ以穢トシ、コレヲ禁ス、必シモコレ
ヲ犯スコト勿レ、瑞穂國ニ生スル五穀ナレハ
万邦ニ勝レ、其精氣ツヨシ、コレニ獸肉ノ邪
熱ヲソユル時ハ惡瘡ヲ發、幽ニハ神祇ノ冥
罰ヲ蒙ル、恐レザルヘケンヤ、近京師ニ儒醫
ト稱シ、獸肉ノ穢ナラサルコトヲ書ニ著シ、人
ニ肉食ヲス、ム、或ハ專ラ鶏ヲ食スルコトヲ

教タルモノア、少年々、但馬ノ温泉ニ往來セ
シニ、或時途中ニテ農家ノ卑夕深キ雷隱ニ
行キ、カシ陷溺シテ死タリ、子孫モ血脉絶タリ、此
類ヲ鑑テ、益神祇ノ禁令ヲ恐レ慎ムヘキ
ナリ。○酒ハ素戔鳴尊出雲國八岐大蛇ヲ退
治シ、チモハントテ軍慮ニテ八醞酒ヲ釀シ、大
蛇飲醉テ睡レル時、寸々ニ斬リ玉フ。又神武
天皇ノ時、大室ヲ作り、盛ニ宴饗ヲ設ケ、虜ヲ
誘酒酣ノ後、一時ニ虜ヲ殺シ、玉フ陰謀ノ具

ナリ。又地神三代ノ御時、大山祇神木花開耶
姬尊天甜酒ヲ造リ、御子達御出生ヲ祝ヒ、夕
マヒシヨリ以來、祝ヒ壽ク事ハ必酒ヲ用、神祭
及宴饗交接ノ礼皆酒ヲ用ユル。トモ神代ヨ
リノ習セナレハ利害得失アルトソノ根元
ヲ考フヘシ。天甜酒ヨリノ流ヲ云フ時ハ酒
ハ天ノ美祿ニシテ、守節飲メハ陽氣ヲ助ケ、
性情ヲ陶シ、ヨコハ血脉ヲ通、食氣ヲ順ナラシメ、
風寒露ノ邪氣ヲ防キ、人倫ヲ和シ、人ヲ喜ハ

シムルノ徳アリ別シノ枸杞黃精地黃菊花
桑椹茯苓等ノ藥酒ハ病ヲ治シ壽ヲ延ハス
百藥ノ長ナレハ神祇モユレヲ許シ玉フ然
レ凡世人嗜ミ飲テ厭フヲナク毎々乱ニ及
スニイタリ天ノ美祿ヲ以テ身ヲ亡スノ具
トナシ風ヲ招キ腎ヲ敗リ腸ヲ爛カシ髓ヲ
費シ筋ヲ弱シ神ヲ傷リ虫ヲ生シ病ヲ發シ
壽ヲ短フス是彼ハ岐大虵飲醉其身ヲ滅亡
シタルノ流ナリ恥ザルベケンヤ醉中ニ渴

スル時水ヲ吞茶ヲ喫スルヲナカレ酒ニ引
レテ腎ノ臟ニ入り停毒ノ水トナツテ遂ニ
腰脚ヲシテ重墜膀胱冷痛ハ或ハ水腫消渴
等ノ疾ヲ發ス酒ヲ過飲スル人多クハ長壽ナ
ルハ無シ百藥ノ長ヲ以テ百病ノ根トナス
コレ誰カアヤマチゾヤ深ク其利害ヲ考ヘ
テ已カ分ニ隨ヒ花ノ朝月ノ夕半酣ニシテ
懋々皞々ナレハ體ニ滿皆春樂コレヨリ大
ナルハナク氣ヲ暢シ心ヲナクサメ身ヲ養

命ヲ延ハスノ妙藥ト爲ンコソ、アニアマホシ
ケレ、世上ノ饗宴ヲ見ルニ際限ナク酒ヲ強
又飲人ノ顔ヲ見レハ眉ヲヒソメ面ヲシカ
メテコレヲ捨ト欲シ或ハ其席ヲニゲント
スルヲ引止メテ無理ニ飲シムルト主客互
ニ如此シバシノ間ニ座中禮法乱レ、ウルハ
シキ人モ、忽氣昏ク神ミダレ、膽大ニ心狂シ、
威儀容貞モ散々ニ取乱シ、其酒毒疾ヲ生、命
ヲ削ル、種子トナルカ、ル不仁不義ノ振舞

ヲ以テ饗應ノ禮トナス、甚怪シク心得カ
タキ事ノ限ナレ、何ノ世ヨリカ習モツテ
性トナリ怪シム人ナキコソカナシケレ、世
人ノ貴フ所ハ道人ノ捨ル所ナリト、古人ノ
語誠ニ思フタラレ侍ル、禹王ハ酒ヲ惡テ儀
狄ヲ疎シ、周公ハ酒誥ヲ作りテ、國民ヲ戒佛
ハ酒ヲ取テ人ニ飲セタル人、五百生カ間、手
ナキ者ニ生ルト、酒ヲ惡ムト益嚴ナリ、神仙
ノ教ニハ禁断スルニハアラス、半酣ヲ好シ、

過飲ヲ惡ム。○茶ハ微寒ニシテ、氣ヲ降シ、頭
目ヲ清シ、痰熱ヲ去リ、渴ヲ止メ、食ヲ消シ、小
便ヲ利シ、眠ヲ少フスルノ能アリ、其功酒ト
表裏ス、酒ハ氣ヲ上セ、茶ハ氣ヲ降ス、故ニ多
ク飲ム時ハ、不眠子ムラレス、酒ハ眠ヲ催ス、空心ニ茶ヲ
喫フヲ禁スヘシ、別シテ鹽茶ヲ空腹ニ吞ム
時ハ、腎中ニ入テ害アリ、○烟艸ハ蠻國ヨリ
渡リ來リ、當世上下トモニコレヲ用ユ、少シ
ハ益アリト雖、凡大ニ損アリ、先ツ事煩シク

家僕ヲ勞シ、口中ノ津液ヲ吐テ、一身ノ玉漿
ヲ失フ、下賤ノ者ハ費多ク、又動スレハ火災
ノ憂アリ、養生ニ志スモノ、用ユヘキモノ
ニアラス、併貪ルシカシムサボトナク、淫スルイトナク、物ニ
鬱スル時、或ハ野ニ遊、舟ニ乗、雪ノ朝花ノ本
ナト、ヲノツカラ捨ガタキ、折々用ヒハ、氣ヲ
養フノ一助ナラン、惣シテ飲食、身ニ害アル
トヲ禁シ、益アルヲ擇ヒテ、恣ニスルト勿レ、
朝夕飯毎ニ、祖神倉稻魂神、稚産靈神、保食神

ノ神名ヲ唱へ三種太極ヲ誦シテ神恩ヲ報
 謝シ次ニ農夫ノ勤勞ヲ思ヒ次ニ養ヲ受ル
 君父或ハ親族他人ニテモ其食ノ來ル所ヲ
 報恩ノ念ヲ發シテ慎ンテ飲食スヘシ常々
 カクノ如ク修スルトキハ自然ト食慾ウス
 少美食ヲ貪ルムサボトナク誤テモ毒氣ニアテラ
 ルトナク無病長命ノ藥トナルカリニモ
 神恩ヲ忘ルヘカラザルモノナリ何ニ付テ
 モ神ヲ恐レ敬ヒ信心篤實ナレハ和光ノ神

カ久フシテ冥感ヲ蒙ルト神道修行ノ要路
 ナリソレ我神道ノミナラス佛家ニハ食時
 毎ニ五觀十佛名ヲ誦シ出生飯ノ作法アリ
 儒家ニハ飲食ノ時毎種少許ヲ出シテ豆間
 ニ置キ先代始テ飲食ヲ為ル人ヲ祭ル論語
 所謂雖疏食菜羹サイコウ凡祭必齊サイ如也トハ是ナリ
 禮記ニ夫禮始于飲食ト云リ道家ニ食時ノ
 作禮咒文等最威儀嚴重ナリ三教トモニ飲
 食ヲ慎ミ禮法ヲ設ルト如此況ヤ我朝ハ五

穀ノ祖神ノ本土且カシ祭祀ヲ以テ專トスル神
國ナレハ益食時ノ作禮敬ムヘシ然ルニ世
上ノ有様ヲ見ルニ食時ノ古實只佛者ノミ
ニ殘リテ其餘神職儒者及ヒ士太夫農工商
トモニ祭事ヲナス人至テ稀ニシテ多クハ
貴モ賤モ只食フヘキ物トノミ思ヒテ口腹
ノ欲ヲ極ントス嗚呼飲食ニ臨シテ祖神ヲ
モ祭ラス報恩ノ心モナキハ全ク禽獸鳥類
ノ水艸花實ヲ求モトメ貪ルニ異コトナラス恥ツヘキ

事ナラスヤタマク我カ飲食ヲ以テ祭ルモノ
アレハ彼口利クチキタ神職儒者達ノ見識ニテハ佛
者メキタリト諺コトワザリ笑フニイタル怪フヘキ
ノ限カギリナリ只願クハ吾黨ノ士人者天下之
神物也ミタモモノナルコヲワキマヘ神恩国恩及ヒ百姓ノ
勤勞食ノ來ル所ヲ念シテ報恩ノ拜禮誦文
ヲ唱ヘテ後飲食スヘシ上ノ文ニ示ス如ク
惣シテ酒食房中ノ事ニ至ルマテ神教ヲ守
リ神言ヲ唱ヘ必シモ放蕩人欲ノ具トナス

ベカラス心アラシ人ハ明師ニ從ヒソレク
ノ神訓咒文ヲ授リ奉行スヘシ是即長生無
病昇天妙果子孫長久家門繁榮ノ神教ナリ
神垂祈禱冥加正直行住坐卧ニアルヲ信
スヘシ

卷之三終

後序

精進
觀心

夫養生之士雖善於
補導不尚修真道則
不過唯延壽命一朝
氣散血涸便歸黃壤
嗚呼百年一彈指風

刀即立至。縱經千萬
歲尚似結一夜夢。雖
悔亦何益矣。故斯編
專示長生訣實為煉
就於純陽之真精。證
得於高天原之神果。
上

耳。讀者其審諸。

明和壬辰三月穀旦

姥嶽大明神三十三世孫

大神貫道識



任用

狀大全

全一冊

改正道中行程細見記

全一冊

撰本ヒラカナ付ニテ此書ヲ見レハ直ニ手紙

ヲ認メ候手本ニ成ヤウニ仕候

年頭狀ヨリ歳暮ニテ四季折々ノ文人取引

ノ手紙世間日用ノ文通不洩集ノ上タルカタヘ

披落狀ヨリ同輩下輩品ヲ書分ケ皆當世ノ

風ニアヒ使ヤウ認メ何様ナル六カキ手紙ニテ

モ文言即時ニ出来ルナリヨリニ部分ヲ出シ甚見

安ク其外書狀認ル便ニナル一委ニク記ス

筆道秘古早學子文

全四冊

入木道ノ秘密口傳悉クアラハシ格法七十

五魚ノ筆法奥義ヲ示ル諸流ノ筆形

筆跡ヲアツメ筆道訓ノ傳授正躰八景

詩歌極則四躰千字文ノ國字引能書

手習法名言等ヲ集メ載ス此書ヲ見テ手

跡習古スレバ上達スルノ神ノゴトシ其外

詩歌ノ仕ヤウ石印ノ彫ヤウ等ニテ初学

ノ便ニ成ルヲ記ス書ナリ

西ハ朝鮮ヨリ東ハ蝦夷松前ニテ國々道中附街

大名方知行高井御紋驛御定ノ駄賃付名

所旧跡神社佛閣等不洩記ニ此書ヲ見レハ

日本國中不巡シテ順覽スルナリ

右ノ書天明年中ニ板行スレドモ國郡相分リガ

タキ故此度一國ツニ色ヲカハ彩色仕候其外重

室ノ事品々増加ヘ候寛政七年ノ新板ト御タ

ツ子可被下候

刪補錦囊外療秘録

全部三冊

先ニ行ハル外療秘録未全備ヲツクサバ

ル故此度増補ス瘰癧腫張ハ元ヨリ下

疔便毒五痔楊梅毒瘡等近世瘡毒家

名醫ノ秘セラル良方ヲ採リモトメテ

病論治方ヲ記シ膏藥油藥針灸ニテ

秘密口傳ヲモラサス集ム外治病症此書

ニモルハ實ニ無双ノ書ナリ寛政ノ技

正増補ニテ御坐候書林

吉文字屋市兵衛藏版

Large vertical columns of faint text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

歌道早指南

全七冊

歌学書數品アリトイヘモカレクシテ初心ノ人分リカタキ故此度海ノ一數々讀方詞寄枕詞ニテ引哥ヲ入レテ委シク註解ス余ハ集之其外可作リヤウ口傳秘密ヲ委シク記スタトヘ歌学達人タリトモ誦ヘ置キ失忘ニ備フベシ

經學拔錦國字解

全一冊

書ヲ讀ムニイタツラ其語ノ註解ヲルニ甚便リナリタトヘ從容ト云字ノ註解ヲ見タキトキハ右從ノ字ノ偏ヲ覺ラキ此書ノ偏冠目錄ヲミテ本支丁付ラサクルベシ其解ヲ委クニス註解スベテ常談ヲ用ニ常人聖人ノ語ヲキイテ早ク耳ニ入りサトサンコトヲ要トススベテ經書ヨニコ遺忘ノ時此書ニヨツテサクラバ端的ニ見ツベシ四書五經小學近思錄其外讀書字引ニ用ヒテ可ナリ

見宜翁醫案

全一冊

古林一代ノ内難治ノ病症ヲ治シタルコト世人ヨク知ル所也其内治驗速カナルモノヲ悉ク松下先生集録ス大ニ治療ノ便リニナル書ナリ

庚申利生記

全一冊

神道ニテハ猿田波太神ト唱ヘ靈騷アラタナルコト世人ヨク知ル所也トイヘトモ諸書ヲ考ヘ御出跡ヨリ段々利生アリシコトモ委ク實跡ヲ記ス其夜庚申侍ト云フ世人トリチカヘ居ルコトニテ弁明ス昔ノ都或ハ神社佛閣ヲ立ル時多クハ此神ノ教ニヨリ靈場ヲ求タル民百姓タリトモ家タテニハ此神ニ白ヒ所ヲ求ムキヨシ本文ニ委シ終リニ庚申經ヲ附録ス

早引正字通

大本増補 全

真字畫引ニテ字ヲ見ルニ甚早レ是ニヨツテ早引ト題ス早キ字ノ引ヤウ委多右ノ本ヲ見ラ知ルニ與ニイ只引四躰千字文其外文字ノ要用ヲ集メノス

醫藥療衆方規矩

全一冊

藥方加減等ヲ委ク記ス道ニ先生治療ノ書ナリ一疾人ニアラスレテモ此書ニヨラバ病家ニアマチテ葉違等ナカルベシ

印判秘訣

全一冊

判ハ人々大切ナルモノニテ是ニヨツテ一生ノ禍福備ヘシヨリ委多コレヲサシ親述ノ印ヲモ圖シテスベテ印判ノ吉凶ヲ弁ズ

大日本道中行程細見記

折懐 中本

西ハ朝鮮ヨリ東ハ蝦夷松前ニテ國々ノ道中付御大名方知行高井御紋御定ノ駄賃附名所舊跡神社仏閣等モラサスルスコレヲ見レバ日本國中ヲメダラスレテ順覽スルナリ

經典讀法早指南

全一冊

粹ニテ國字ヲ以テ其義ヲトク初学ノ人此弁ヲ以テ自得セバ書ヲ解スルコト水ノ下ニツカカコ四書小學近思錄易學傳編中曉シカタキ語ニ至ツテハ諸論ノ弁同異得失ヲ評論シ他本ニアラサル註解ノ奧多キハムルユエタトヘ博學ノ人タリトモ見スニバアルベカラザル書ナリ

諸人養生論

全一冊

此ニ原先生養生訓世ニ行ハルトイヘトモ六ヶ敷今ノ人ノ行ヒカタキコト多シ此書ハワツカ小冊ニシテ人間養生ノ極秘ヲ述タリ此書ニヨツテ常ニ養生ノ道ヲ心カケバ無病長生ニシテ天壽ヲ得ルノ良書ナリ

大成正字通

全部七冊 合爲一本 懐中本

故ニ發行スルノハレメヨリイタ年用ラ應サレ火ニ世ニ行レテ印板既ニ磨滅ニ至レリヨツテ此度字數ヲ廣大ニ増益シテ更ニ字ヲ引ニ至テ速ニ燦レカラザル法ヲ工夫シテ新ニ監刻シ普ク海内ニ布ク其題号ヲ革ルヘ左ノ如シ 急用間合即座引之全本 右ハ神書和書儒書醫書詩文集尺牘歌書連誦或ハ雜劇小說佛書ノ類諸子百家書數千部ヲ集メ其中ヨリ用フベキ字ヲ抄シテコレニ音訓又ハ説ヲ副テ新ニ撰シ大ニ増補スコレニ印行ノ字引多シトイヘ此書ニ較レバナレモ及バサルコトハ門部ニテ御見クラヘナサレ候テモ分明ニ知レ申候コレニテ字ヲアツムルコトレバテノ字引ニ十倍シテ雅俗日用ノ切要ヲ不洩ルヲ知レバ和漢ノ字ニ志シ詩文尺牘和歌連誦ヲ作ル人ハ多ト達人トイヘコレヲ藏テ失忘ニ備ヘシ其字ヲ引ノ速ナルト増益ノ趣ハ別ニコレヲ記ス

和漢三才圖會 寺島良安 先生撰 全十冊

博物筌 全部七冊 合本一冊

妙術博物筌 全部七冊 合本一冊

日本歲時記 貝原先生作 全部八冊 合本四冊

急用間合即座引全本 全七冊 字ヲ引ニ早キ事本ヲ御覽ナサレ候得バ直ニ見申候

大金正字通

全七冊 字ヲ引ニ早キ事本ヲ御覽ナサレ候得バ直ニ見申候

大成正字通 新撰所増 益之要目

正字 點畫ヲ正シ 誤字ヲ弁ス

假字 カナツカヒ 改ム

枕詞 和歌ノ用ル所 各其下記

年中行事 朝廷ノ公事 寺社年中祭 會ノ月日ヲ悉クル

用字要訣 同訓ニテ其義ノ異ナル字ハ其 誤ヲ記メテ字ヲ用サルヲ示ス

成語熟字 經史詩文尺牘ニ用フ語又 其熟字ヲエラニテ誤ラ

異名漢字 事物品類ノ異名雅稱又 漢字ノ別名ヲ示ス

俗語和名等ノ物詩文ニ遺タク雅語漢語ヲ書

俗語一族 入相 色町 右ノ通ニ悉ク候ニ雅

雅語瓜瓞 鮫鱈 花街 語ヲ附テ見ルニヨリ何

書狀又贖漢文ニ書候トキモ此書ニ濟申候トハ

未接芝罘 ①ノ部 出會ル ①ノ部 スムニアリ

狀ニ用ユル詞ハ左ニ漢文ヲ附テ和文ニ漢文ニ ヽハテ

地名ヲ雅ニ書タキ時ニ見レバタリハ江戸ナラバ

江戶 東都 武關 江陵 此ノ如クイフレ 國ニ記ス

右ノ書ハ節用字引ノ古今大成此類ナキ書ナリ 日用ノ字ヲ倍率倍々共ニ學文ノ用ヲ達スル一〇タキトキハ此書ニ引テ見ルベシ 詩文ヲ作ルニ習スレテ作ラレ〇字文讀書註 本ナクシテ其書ヲアキラメ〇書狀尺牘ノ漢語 ヲ知リ漢文和文皆此書ニテ調フ〇天地万物草 木魚鳥何ニヨラス異名悉ク知レ〇和漢官職ノ 名儀ヲ戴〇字ノ平仄ヲアキラカニサトレ〇草 字ニ真字ニ書フタヤスク〇假名遣ヲヨク辨ハ 〇哥ヲ讀ミ誦讀ヲスルニ此書ニヨレバ大ニ徳アリ〇寺 社參詣ノ月目スベテ委シ和漢年代記塩ノミナチ 賑忌令男女各尽 其外諸道ニ用テ大ニ益アル節用 ナリアラニシ其訣ヲ左ニ記ス 〇讀書ヲナサレ候ニ甚益御座候共ニ詩文御讀ニ 又ハ御作リナサレ候ニ此書ヲ座ノ側ニ置レ度候經 史詩文熟語ハ九覽ニ居テモ字ヲ忘レ或ハ一字ヲ 覺テ一字ヲ忘レ又ハ臆懼ノモアリ又ハ遺方シカト

會得セメズトハ... 此書ニテ御引御覽ナリ

ルハ候 經史詩文... 相誤リ申候

誤 陀 ヲカノトアタラ月日

膠漆 ヲカノトアタラ月日

唐突 タクツツ

徒擗 テノ部ニ

スヘテ 熟字ヲ出ス

學文ニ 遺フ字皆知申候

○慶字 是ハ二字同シ

遺フ字多シ 此誤ヲ見タキ時モ此正字通ニテ引テ

見レバ 悉ク誤ヲシルス

郁々 穆々 威儀

○平仄ヲ字毎ニ 副疑シキ字ハ此書ニテ見ル

熟字ニテナキ字ハ 雜部ノロニ音ニテ一字ツ、出ス

キ字ハナレ共ニ書ヲカクニ 行草真ニ書又ハ筆畫

ニキ時ニ書ニヨシテ見ル

多シトイヘトモ是亦トニ改メ...

ナドハ外ノ書ニ...

○和歌ヲ讀人持...

ヲ見ルト右ニ記ス...

トトバク出ス...

大和 鄙

並ニ國々ヲ其下ニ記ス

○誹諧ニ大ニ便利ナリ...

ニ委シ世間ニナル...

季ヲ付テ見ヤ...

○寺社祭詣日祭禮...

見タキ時ハ...

八幡 正神 泰正月十九日

放生會 八月十五日

花ノ頭 九月九日

安居頭 七月十五日

ニナシ大ニ増補節用ナリ

